

黄色バラ花発酵液

■開発の経緯

バラ(薔薇)は、精油としてテルペンなどが美白作用、リラックス作用、また、色素やペプチド類、糖質や有機酸も美容効果が確認されています。しかし、これらの有効成分は食物繊維に結合しやすく、また、液胞などに蓄積されているため、利用には限りがありました。そこで、オリジナル発酵法により有効成分を低分子化し、かつ吸収性の高く、皮膚に対して働きが優れた黄色バラ花発酵液ができあがりました。



■表示名称

1. INCI

Bacillus/Rose Flower/Soybean Ferment Filtrate

2. 化粧品表示名

バチルス／(バラ花／ダイズ)発酵液

3. 特許 第5621330号

セラミド生成作用を呈するテンペルペプチド結合体の製造方法

■作用

皮膚細胞間脂質(セラミド)の増加
皮膚保湿成分の増加
美白(皮膚メラニンの減少)
皮膚遺伝子修復作用

安定性 冷暗所にて2年間

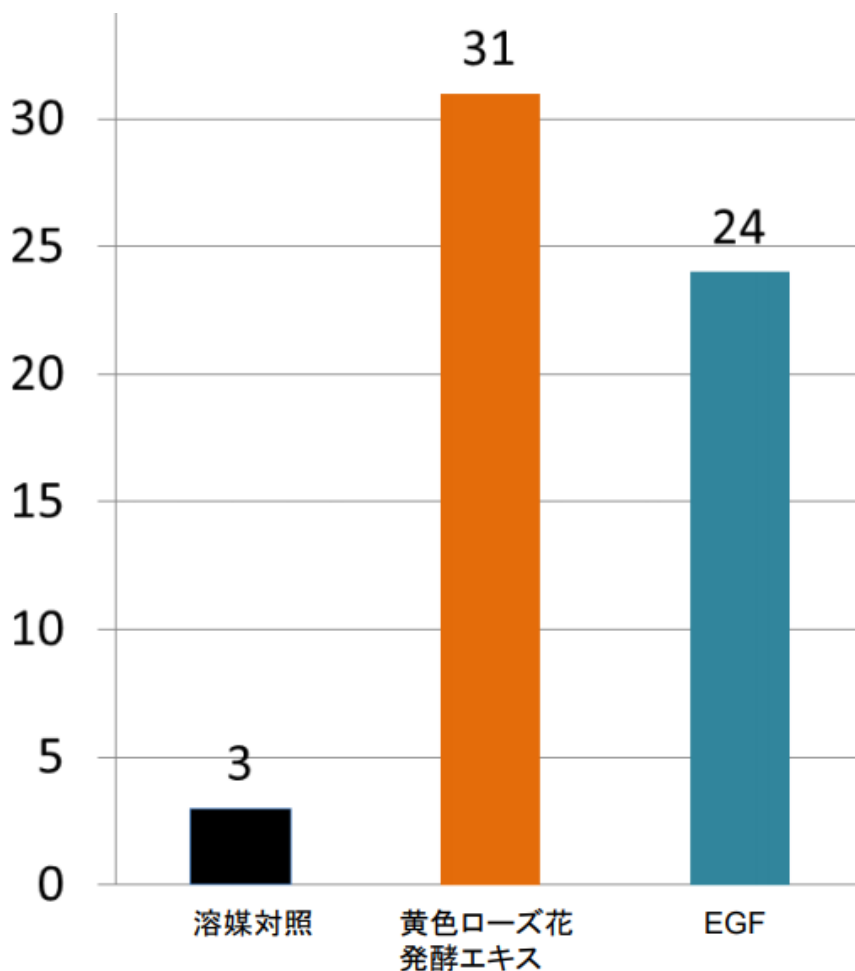
添加物 BGなどの添加物は使用していません

安全性 ヒトによるパッチ試験で安全性を確認

黄色バラ花発酵液

皮膚表皮細胞／セラミド増加作用

セラミド量 ($\mu\text{g}/1000 \text{ cells}$)

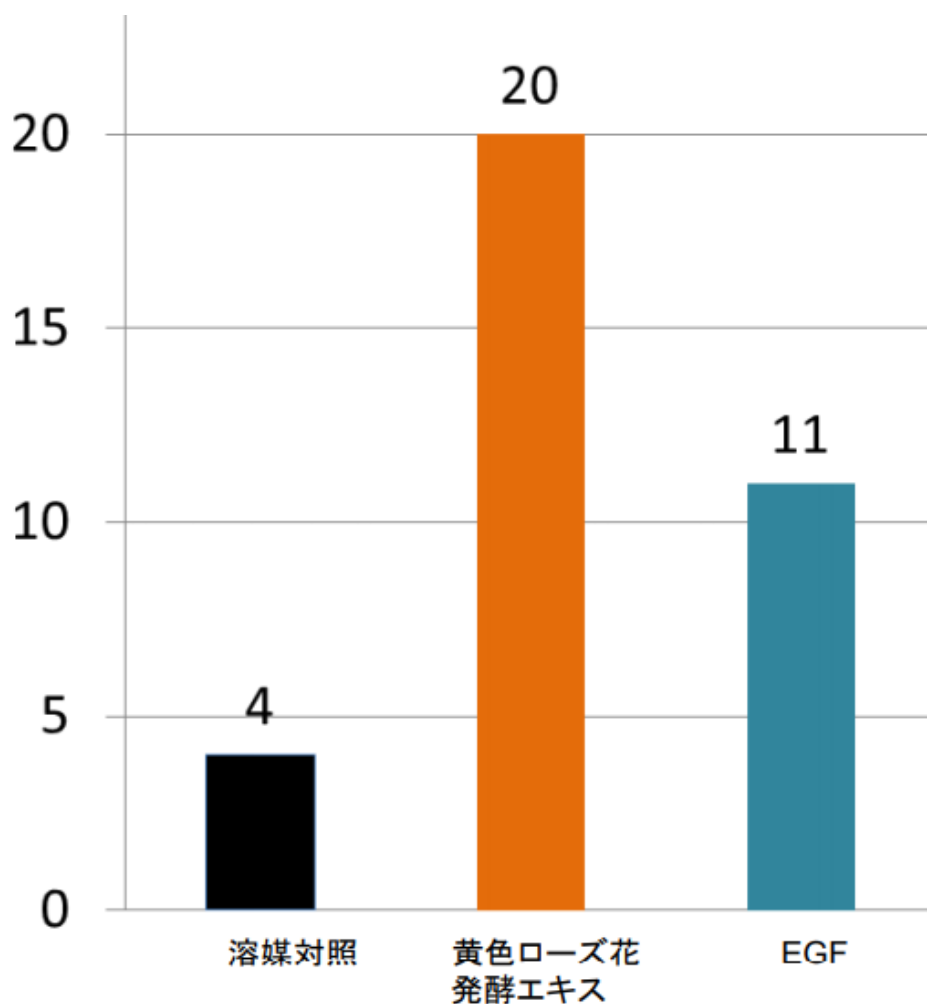


黄色バラ花発酵液は、ヒト皮膚表皮細胞のセラミド量を増加させました。その働きはEGFよりも優れていました。

黄色バラ花発酵液

皮膚表皮細胞／ヒアルロン酸増加作用

ヒアルロン酸量 ($\mu\text{g}/1000 \text{ cells}$)

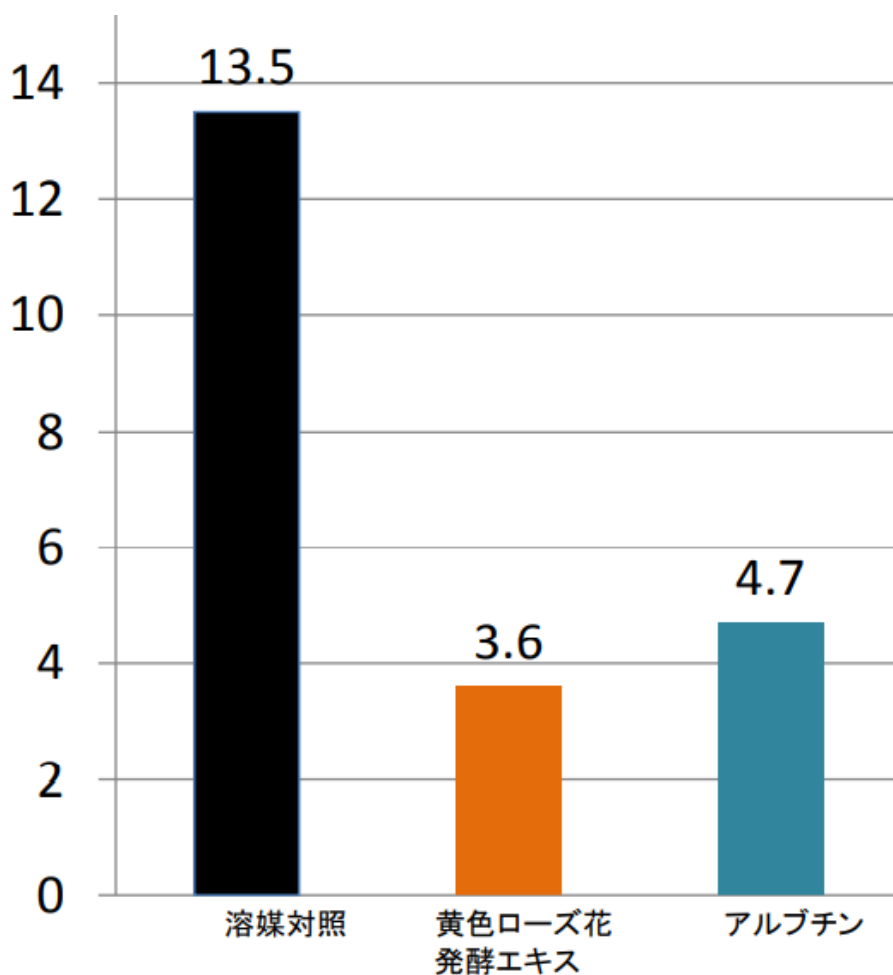


黄色バラ花発酵液は、ヒト皮膚表皮細胞のヒアルロン酸量を増加させました。その働きはEGFよりも優れていました。

黄色バラ花発酵液

皮膚表皮細胞／メラニン抑制作用

メラニン細胞数 (× 1000 cells)

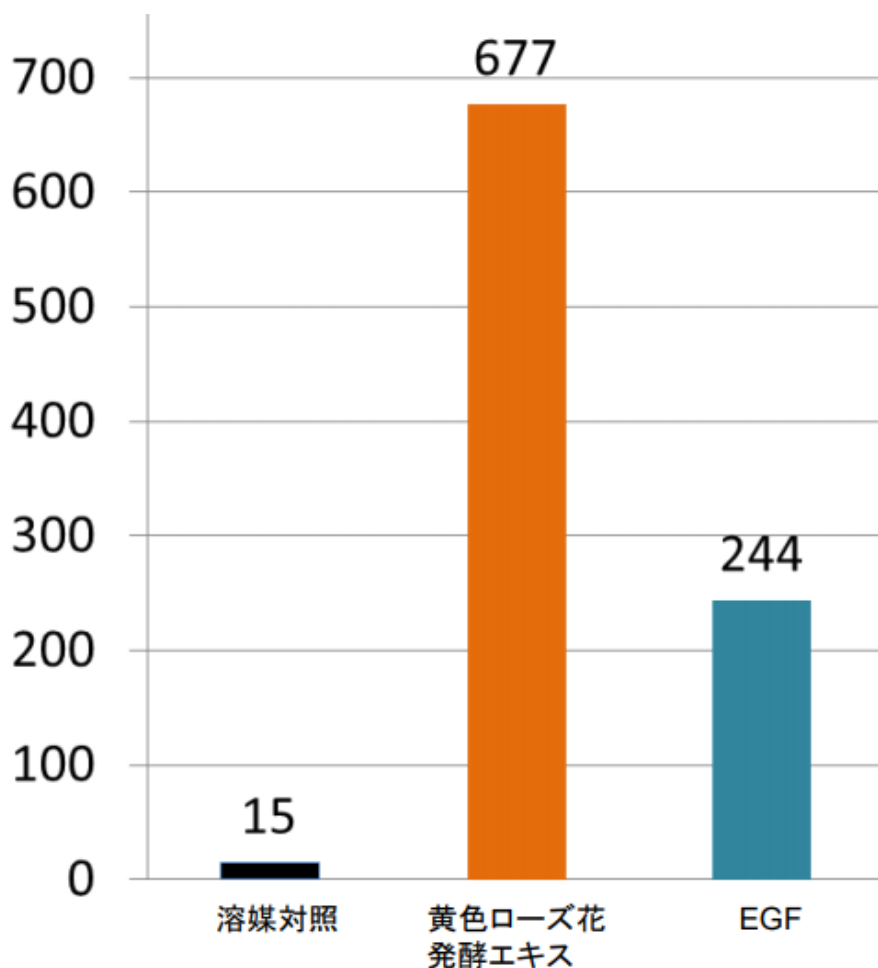


黄色バラ花発酵液は、ヒト皮膚メラニン細胞の増殖を抑制しました。その働きはアルブチンよりも優れていました。

黄色バラ花発酵液

皮膚表皮細胞／遺伝子修復作用

DNAポリメラーゼmRNA発現量(×1000 cells)



黄色バラ花発酵液は、ヒト皮膚表皮細胞のDNAポリメラーゼのmRNA量を増殖させました。その働きはEGFよりも優れていました。